

(平成24年8月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>8月期の野菜の入荷状況は、根菜類では、長ダイコンが前月の入荷の遅れから回復し、順調に入荷しているものの、前年の入荷が多かったことから入荷減、西洋ニンジンが前年並みの入荷となった。葉菜類では、多くの品目で、好天に恵まれ作柄良好であったことから入荷増または前年同期並みとなったが、ハクサイが、需要の減退の影響により入荷減、ホウレンソウが、主力産地の作付面積の減少から入荷減となった。果菜類では、ほとんどの品目で好天に恵まれ作柄良好であったことから、入荷増または前年同期並みであった。土物類では、バレイショが好天に恵まれ作柄良好であったことから入荷増、タマネギが主力産地の切り上がり早く、入荷減となった。野菜全体の入荷量は、前年同期を4%下回った。</p> <p>価格は、根菜類では、長ダイコンが需要の低迷により単価安、西洋ニンジンが品質の低下により単価安となった。葉菜類では、ハクサイ、ホウレンソウが入荷減の単価高、レタスが入荷増の単価安となった。土物類ではバレイショが入荷増の単価安、タマネギが全国的な品薄状態により単価高となった。野菜全体としては前年同期を5%下回った。</p> <p>品目別には、レタス、キュウリ、ナス、ピーマン、バレイショが入荷増の単価安、キャベツが入荷量、単価ともに前年並み、西洋ニンジン、トマトが入荷前年並みの単価安、ハクサイ、ホウレンソウ、タマネギが入荷減の単価高、長ダイコンが入荷減の単価安となった。</p> <p>根菜類は、入荷が5%減少し、価格は14%安なった。 葉菜類は、入荷が9%減少し、価格は前年並みとなった。 果菜類は、入荷が4%増加し、価格は17%安となった。 土物類は、入荷が8%減少し、価格は23%高となった。</p>
果 実	<p>8月期の果実の入荷状況は、多くの品目で、高温、干ばつの影響等により入荷減となった。果実全体の入荷量は、前年同期を10%下回った。</p> <p>価格は、柑橘類では入荷減ながら、着色不良等品質の低下がみられたため前年同期並み、リンゴ類、モモ類、スイカ類では入荷減の単価高、ナシ類では前年同期並みとなった。ブドウ類では、入荷増ながら盆前の急激な入荷増もなく、盆後も堅調に推移したことから単価高、メロン類では盆需要により単価高となった。果実全体では、前年同期を17%上回った。</p> <p>品目別には、デラウェアが入荷前年並みの単価高、幸水ナシが入荷量、単価ともに前年並み、ハウスミカンが入荷減の単価前年並み、津軽リンゴ、桃、アールスメロン、大玉スイカが入荷減の</p>

単価高となった。

柑橘類は、入荷が25%減少し、価格は前年並みとなった。
リンゴ類は、入荷が41%減少し、価格は40%高となった。
ナシ類は、入荷が11%増加し、価格は前年並みとなった。
モモ類は、入荷が24%減少し、価格は31%高となった。
ブドウ類は、入荷が7%増加し、価格は7%高となった。
メロン類は、入荷が13%減少し、価格は15%高となった。
スイカ類は、入荷が10%減少し、価格は21%高となった。

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【根菜類】 長ダイコン</p>	<p>北海道を中心に、青森県、岩手県、長野県、岐阜県からの入荷。 主力の北海道産で、前月の入荷の遅れから回復し、順調に入荷しているものの、前年の入荷が多かったことから、全体の入荷量は、前年同期を7%下回った。 価格は、高温による需要の低迷により、前年同期を5%下回った。</p>
<p>西洋ニンジン</p>	<p>北海道を中心に、青森県、中国、和歌山県、長崎県からの入荷。 主力の北海道産で、高温と湿度の高さにより腐敗が発生していたものの、全体の入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、品質の低下がみられたことから、前年同期を27%下回った。</p>
<p>【葉菜類】 ハクサイ</p>	<p>長野県を中心に、北海道からの入荷。 主力産地の長野県産でおおむね生育は順調であったが、一般需要の低迷及び業務・加工需要の著しい減退により、全体の入荷量は、前年同期を33%下回った。 価格は、入荷減により、前年同期を5%上回った。</p>
<p>キャベツ</p>	<p>群馬県を中心に、長野県、北海道からの入荷。 各産地とも、好天により作柄順調であったことから、全体の入荷量は、前年同期並みであった。 価格は、一般需要の低迷及び業務・加工需要の低迷により、単価安であった前年同期並みとなった。</p>
<p>ホウレンソウ</p>	<p>岐阜県を中心に、北海道、京都府、長野県、茨城県からの入荷。 主力産地の岐阜県産で、作柄順調で前年以上の入荷があったものの、北海道産で作付面積が減少したことから、全体の入荷量は、前年同期を11%下回った。 価格は、入荷減であったことから、前年同期を6%上回った。</p>
<p>レタス</p>	<p>長野県を中心に、北海道からの入荷。 主力産地の長野県産で、好天に恵まれ作柄良好であったことから、全体の入荷量は前年同期を19%上回った。 価格は、入荷増であったことから、前年同期を22%下回った。</p>
<p>【果菜類】 キュウリ</p>	<p>福島県を中心に、京都府、愛媛県、奈良県、青森県からの入荷。 多くの産地で、好天に恵まれ作柄良好であったことから、全体の入荷量は、前年同期を4%上回った。 価格は、入荷増であったことから、前年同期を19%下回った。</p>

ナス	<p>京都府を中心に、徳島県、和歌山県、岐阜県、奈良県からの入荷。</p> <p>主力の京都府産で、下旬の大雨の影響により入荷が減ったものの、多くの産地で、好天に恵まれ作柄良好であったことから、全体の入荷量は、前年同期を9%上回った。</p> <p>価格は、入荷増であったことから、前年同期を24%下回った。</p>
トマト	<p>北海道を中心に、岐阜県、京都府、青森県、茨城県からの入荷。</p> <p>主力の北海道産、岐阜県産などで、下旬に夜温が高かった影響により一時期に入荷が集中したが、前半は例年並みの入荷であったことから、全体の入荷量は、前年同期並みであった。</p> <p>価格は、前年高値であったことから、前年同期を11%下回った。</p>
ピーマン	<p>大分県を中心に、兵庫県、福島県からの入荷。</p> <p>多くの産地で、好天に恵まれ作柄良好であったことから、全体の入荷量は、前年同期を11%上回った。</p> <p>価格は、入荷増であったことから、前年同期を20%下回った。</p>
<p>【土物類】</p> <p>バレイショ (メイク含む)</p>	<p>北海道を中心に、青森県、千葉県、京都府、長崎県からの入荷。</p> <p>下旬に局地的な大雨と気温の上昇により品質の低下がみられたものの、多くの産地で、好天に恵まれ作柄良好であったことから、全体の入荷量は、前年同期を11%上回った。</p> <p>価格は、入荷増であったことから、前年同期を11%下回った。</p>
タマネギ	<p>兵庫県を中心に、北海道、中国、京都府、アメリカからの入荷。</p> <p>主力産地の兵庫県産で、生育期の低温の影響から不作であったため切り上がり早く、全体の入荷量は、前年同期を18%下回った。</p> <p>価格は、全国的な品薄状態により、前年同期を87%上回った。</p>
<p>【その他野菜】</p> <p>生シイタケ</p>	<p>徳島県を中心に、北海道、広島県、和歌山県、岡山県からの入荷。</p> <p>主力の徳島県産、広島県産で高温により収穫量が減少したものの、北海道産、和歌山県産の入荷は増加したことから、全体の入荷量は、前年同期を5%上回った。</p> <p>価格は、入荷増であったことから、前年同期6%下回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
ハウスミカン	<p>佐賀県を中心に、福岡県、長崎県、和歌山県、宮崎県からの入荷。</p> <p>各産地ともに、重油価格高騰の影響により栽培面積が減少しているため、前年同期を25%下回った。</p> <p>価格は、入荷減であったものの、着色不良等品質の低下がみられたため、前年同期並みとなった。</p>
津軽 （サン含む）	<p>長野県からの入荷。</p> <p>高温、干ばつの影響による着色の遅れから入荷が遅れたため、全体の入荷量は、前年同期を13%下回った。</p> <p>価格は、入荷減であったことから、前年同期を29%上回った。</p>
幸水ナシ	<p>徳島県を中心に、佐賀県、長野県、富山県、福岡県からの入荷。</p> <p>各産地ともに、作柄も良く入荷も順調であったことから、全体の入荷量は、前年同期であった。</p> <p>価格は、盆前後で一時高騰したものの、月全体で安定して推移したことから、前年同期並みとなった。</p>
桃	<p>山梨県を中心に、長野県、福島県、和歌山県、岡山県からの入荷。</p> <p>主力産地の山梨県で前月に前進出荷であったこと、長野県産で小玉傾向であったこと、福島県産で病害があったことから、全体の入荷量は、前年同期を24%下回った。</p> <p>価格は、入荷減であったこと、盆需要と重なったことから、前年同期を31%上回った。</p>
デラウェア	<p>山梨県を中心に、山形県、長野県、京都府、大阪府からの入荷。</p> <p>多くの産地で高温による着色不良のため、入荷量が少なかったものの、主力の山梨県産で入荷が多かったことから、全体の入荷量は、前年同期並みとなった。</p> <p>価格は、盆前の急激な入荷増もなく、盆後も堅調に推移したことから、前年同期を14%上回った。</p>
アールス	<p>静岡県を中心に、茨城県、高知県、愛知県、京都府からの入荷。</p> <p>多くの産地で高温・少雨により玉肥大が激しく、品質の低下がみられたことから、全体の入荷量は、前年同期を16%下回った。</p> <p>価格は、下位等級が中心であったため月通して単価安であったものの、盆需要時のみ単価高となったことから、前年同期を10%上回った。</p>

大玉スイカ

山形県を中心に、長野県、秋田県、石川県、滋賀県からの入荷。各産地ともに、好天に恵まれ作柄良好であったものの、前月に前進出荷気味であったことから、全体の入荷量は、前年同期を8%下回った。

価格は、入荷減であったこと、盆需要と重なったことから、前年同期を21%上回った。